

第五十五回 長野県手をつなぐ育成会 大会 アピール

「生まれた地域で暮し続ける」

私たちはこのことについて幾度となく学び考えてきました。

今日は、今までの育成会活動とこれからの地域福祉について思いを巡らし、これからの育成会活動のあり方について考えました。

神奈川県相模原の入所施設津久井やまゆり園の悲惨な事件についても、他人ごとではない哀しきみと憤りを新たにし、知的障害というだけで、その存在が否定され疎まれるような社会であってはならないことを再確認しました。

一人ひとりの存在が尊ばれ、互いに尊重しあい、助け会える地域で暮らし続けられること、そしてそれが親亡きあとも継続的に保証されること、これは知的障害者を家族に持つ誰しもが思う心からの願いです。

一人の力は弱くもろく、その声は小さくかき消されてしまいますが、同じ悩みと意思を共有する仲間が揃えば、その存在は大きくなり、声も響き渡るようになります。

そして、一人では耐えられない現実があっても仲間の存在は、明日への一歩の糧であり心の支えにもなります。

我が子を思い、我が子の行く末を案じ、ともに行動する力と前を向いて進む勇氣をもって活動し続けることを胸に、本大会のアピール文を宣言します。

一 「高齢知的障害者」のその人らしい健やかな老後の実現のために関係団体と情報を共有し問題点を明らかにし今できることを実現していきます。

二 「共生社会」実現のため自ら「共生社会」のけん引役として地域育成会の活動を進めその活動の大切さを地域の仲間伝えていきます。

三 障害者福祉制度の更なる向上と、より一層の充実を求め続けるために活動を推進し、活動する仲間を増やしていきます。

平成 三十年 六月 三十日

第五十五回 長野県手をつなぐ育成会大会